

六中教育サポートセンターだより

「教育サポートセンターは六中の要です」

校長 大熊 一正

令和8年
3月13日
第29号
八王子市立
第六中学校
教育サポートセンター
事務局
電話622-9131



六中の大きな特徴の一つが、教育サポートセンターの存在です。様々な場面で今年も生徒の学びを支援していただきました。さらに、昨年度からは、別室支援の取組も始まり、教育サポートセンターの役割はさらに多様なものになっていきます。例えば、マンデイ活動では、多くのサポーターの方に来ていただいています。ですが、それを取りまめ

地域の力を借り、学びをサポートする人の力を借りながら、生徒の学びを支援することが必要です。昨年度よりスタートした3年生放課後学習教室も生徒や支援する大学生サポーターの方を取りまとめていただきました。この取組は、毎週火曜日と金曜日に、大学生の方や地域の方に来ていただき、放課後2時間、図書室で希望する3年生が学習できる場を提供する取組です。小さな弟妹がいて、なかなか落ち着いて学習できない。スマホやSNSの誘惑に勝てない

迎える3年生にとっては切実なものです。週2日だけですが、そのようなことに惑わされずに学習に集中できる場があることはとてもありがたいことです。近年の学びは、生成AIの登場でさらに難しいものになってきました。条件さえ入力すれば、頭脳を使わなくても求めるものができてしまう。それは、確かに課題はクリアされています。このかもしれ

教育サポートセンターが担う学びは、地域の子どもたちが、コミュニケーションをしながら学ぶものです。それは、様々な力を鍛えていくことができるものです。樹木に例えて言うならば、樹の幹を太くする学びです。どんなに枝を伸ばしても、幹が細くてはちよつとの風で木は折れてしまいます。そうではなく、最終的に生徒自身が自分の力で枝を伸ばしても倒れない太さをもつことがこの時期の教育には必要だと思えます。時代が進歩しても、それを担う人が育たなければ、人類の未来は危うくなります。ぜひこれから六中の生徒たちのために、教育サポートセンターの取組をよろしく願います。



「そのことばから、学びがはじまる」

国語科教諭 清水 成美

「その一言で、心が動いた！」

国語の授業では、こんな出来事が毎日のように起こっています。物語の一文に思わず笑ったり、登場人物に「それは違うでしょ」と心の中でつつこんだり、友達の意見に「へえ」と目を丸くしたり。教室の中は、多くのことばに出会える場所です。国語には、答えがぴったりに決まっている問題もあれば、「うーん」と頭をかきながら考える問題もあります。時には言いたいことがうまく言えず、「えーっと・・・」と沈黙が流れることもありませんが、その間、頭の中ではたくさんのことばが全力疾走しています。

そんな六中生の学びを、教室の外から支えて下さっているのが地域の方々です。時には、先生のことばより、地域の方々の一とことの方がスツと心に届くこともあるようです。

私たち教員も、子どもたちの「伝わった」「わかった」を増やしていきたいと考えています。六中は、地域の中で長く大切にされてきた学校です。世代を越えてつながるご縁の中で子どもたちと過ごせることを、私自身誇りに思います。これからも地域を愛し、愛される学校であり続けられるよう、皆様とともに歩いていけたら幸いです。いつも温かなご支援を、本当にありがとうございます。

「言葉とやさしさに支えられて」

学習サポーター 浅倉 凌

「おはようございます。」

初めて六中を訪ねた日、生徒の何気ない挨拶に、この学校の温かさを感じました。教育実習が始まって、わずか三週間ほどの短い期間の中で、子どもたち一人ひとりが考え、学ぼうとする姿勢に、この学校が育んできたやさしさと規律の確かさが伝わってきました。その背景には、日々生徒に向き合う教職員の先生方もとより、学校を支えてくださる地域や保護者の方々の存在があることを、実習やサポーターとしての活動を通して、強く実感しました。

私はさらに二年間、教育について学びを深めていきます。実習で得た学びと出会いを原点とし、子どもたち一人ひとりの思いに丁寧な歩み寄り、その成長を支えられる教員となれるよう、研鑽を重ねてまいります。貴重な学びの機会を与えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



《 令和7年度 「教育サポートセンター」 活動記録 》

- ◎マンデイクラス 22回 のべ 161人
- ◎寺子屋 12回 のべ 39人
- ◎図書サポート 64回 のべ 101人
- ◎音楽サポート 5回
- ◎華道指導 11回
- ◎3年生放課後学習教室 23回 のべ 23人
- ◎「六中教育サポートセンターだより」3月発行